

日本の医療の構成と海外技工※

国民皆保険制度

医療法（健康保険法・歯科医師法

※日本の医療制度を根本から否定し崩壊させる
歯科技工士法・薬事法)

医学的課題

- ・全身疾患
 - ・高齢化に伴う疾患
- ※医学的到達点を踏まえていない
※学会の検証なし

医療的課題

- ・高齢化社会に伴う課題
※在宅・病院歯科など
 - ・医療行政の課題
※受診率の低下・中断患者の激増
※技工士の離職・閉院
- ※医療的到達点の課題とは無縁
※更に事態を悪化させる

医療経済的課題

- ※世界一効率の良い医療を否定
- ※膨大な社会的負担を負う

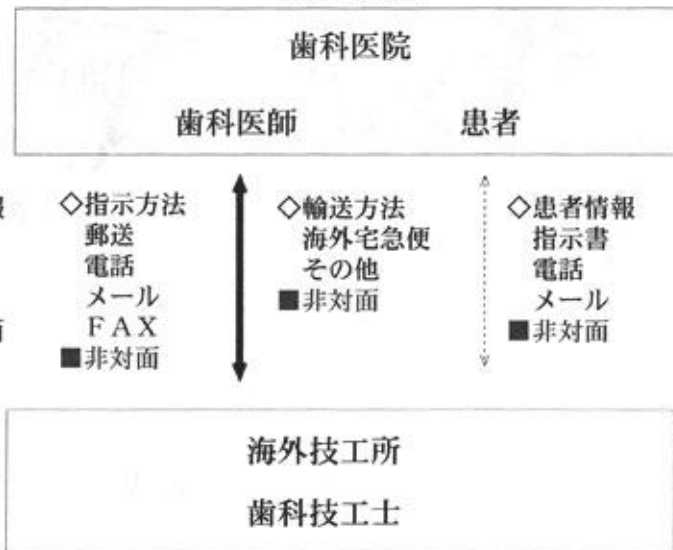
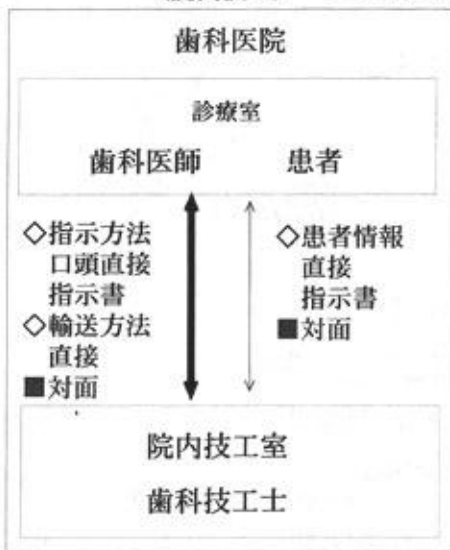
国内外技工の医療内容・連携の違い

(院内技工)

国内技工

(地域ラボ)

海外技工



	院内	地域
患者情報	◎	○
スピード	◎	○
安全性	◎	◎
医療品としての品質機能性	◎	◎
	◎	◎
	◎	◎
再製対応	◎	◎
責任の所在	◎	◎
情報開示	○	○
医療連携	◎	○

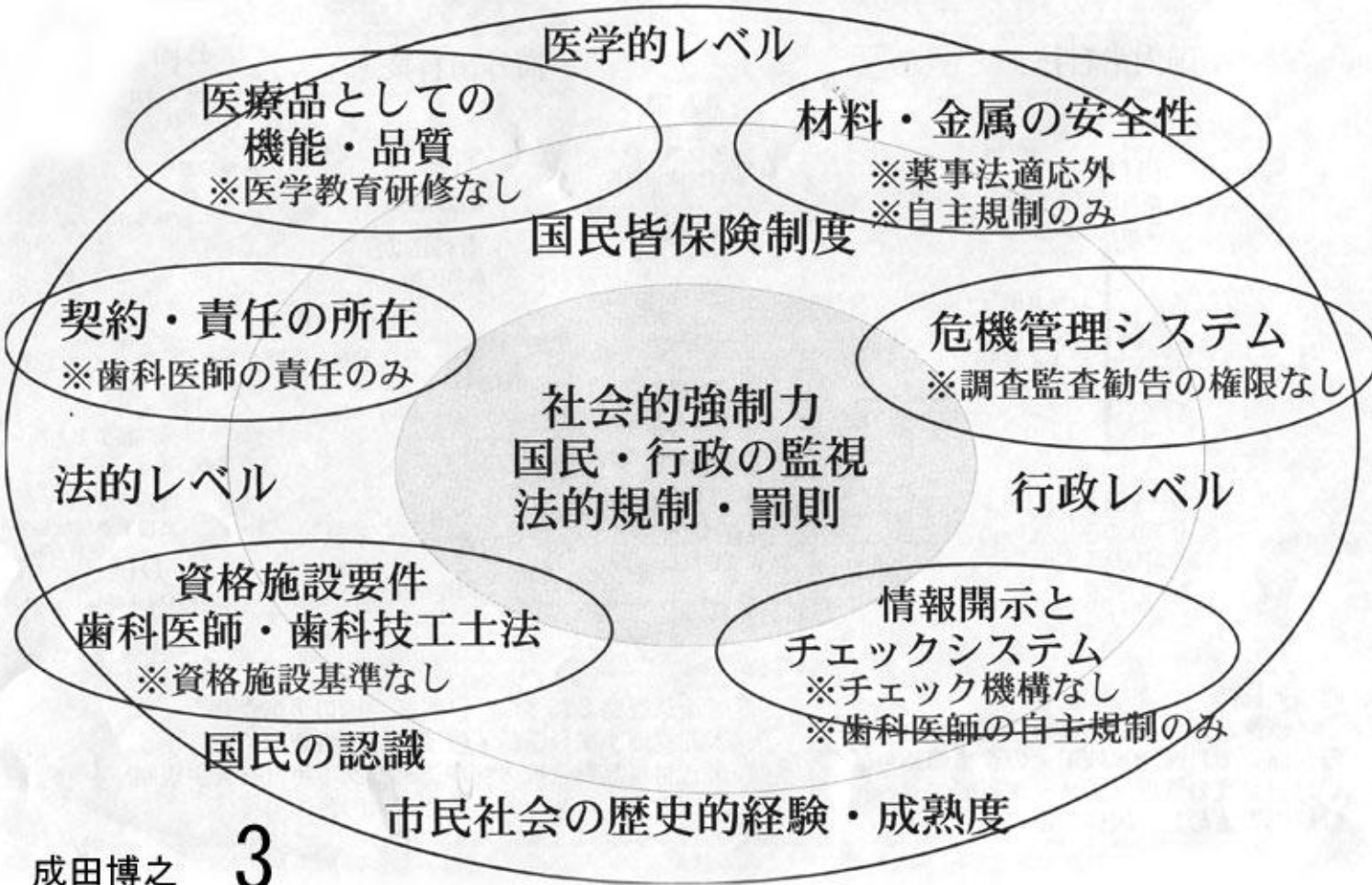
◎※技工士教育

	院内	地域
義歯修理	◎	◎
リベース	◎	◎
即時義歯	◎	○
集中治療	◎	○
在宅対応	◎	△
入院対応	◎	△
金属アレルギー	◎	◎
対応	◎	◎

患者情報	△	※文書のみ
スピード	×	※宅急便で片道3日
安全性	×	△※自主規制
医療品としての品質機能性	×	△※自主研修
	×	△※時間的に難
再製対応	×	△※仲介下請けは難
責任の所在	○	×
情報開示	×	△※自主開示
医療連携	×	

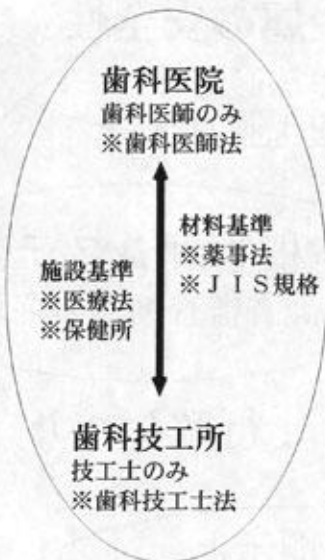
義歯修理	×
リベース	×
即時義歯	×
集中治療	×
在宅対応	×
入院対応	×
金属アレルギー	×
対応	×

歯科技工に求められる安全性の諸要件と海外技工※

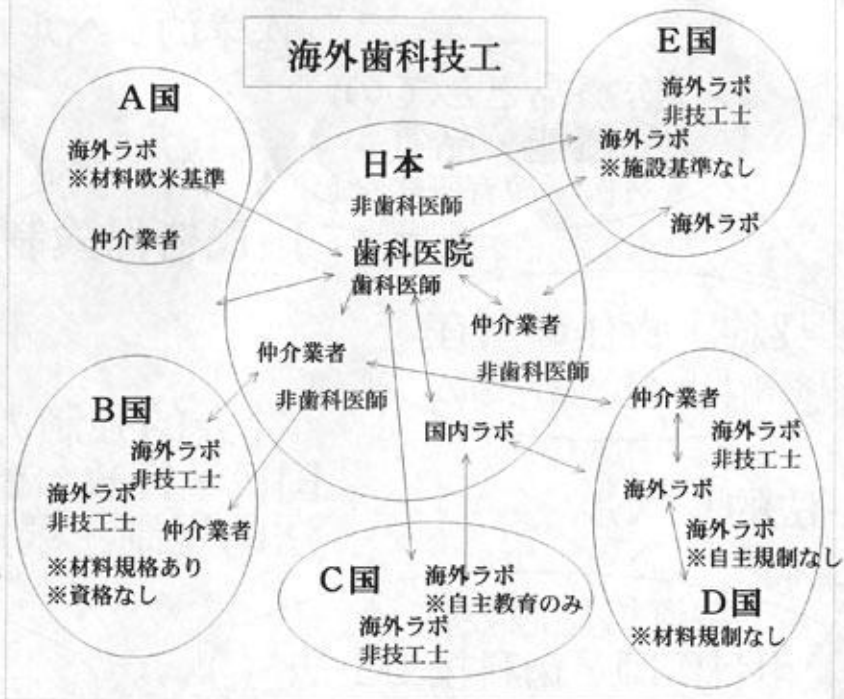


技工物流通ルートと安全・管理の難易差

国内歯科技工



海外歯科技工



◎流通経路シンプル

※歯科医院1件 ↔ 歯科技工所 1～2件

◎対面：歯科医師・技工士の資格確認可能

◎材料品質の管理・チェック可能

◎罰則規定あり 国民の監視可

×流通経路多種多様

×相手国の事情が様々

×非対面：歯科医師・技工士の資格確認不可

×△材料品質管理の管理チェック不可（△自主規制）

×罰則規定なし（対外的に難）国民の監視外

技工総数と検査費用

国内技工物 1千万個/月以上

(歯科医療機関1件につき100~200個/月として計算)
全てオーダーメイド・技工種類50種類以上

歯科医院数 7万件

歯科医療機関数 68,260件
病院歯科医師数 12,269名
診療所歯科医師数 82,324名
(平成18年度)

歯科技工所 2万件弱

歯科技工所数 19,435件
(平成18年度)

海外技工物100~300万個/月

(国内シェア10~30%として)

●全量検査：2千円/個（金属分析のみ）×100~300万個/月
= 20~60億円/月：240~720億円/年

●サンプリング検査：2千円/個（金属分析のみ）×1~3万個/月
= 2~6千万円/月：2.4~7.2億万円/年
(100個に1個のサンプリング調査として)

技工コスト比較

保険単冠	国内技工		海外技工	
労賃	800	①	40	②
教育費（資格取得）	67	③	0	
設備費	100		50	
電気光熱費	100		100	
材料費	1000		800	④
衛生管理費	20		0	
単体コスト	2087		990	
輸送費	0		300	⑤
輸入品チェック費用	0		2000	⑥
総コスト	2087		3290	

① 40万円(日本技工士平均給与月額) /500個 (技工数)

② 2万円 (中国技工士平均給与月額) /500個 (技工数)

③ 800万円 (技工士教育非) /20年/12月/500個

④ 国際金属価格は同額
低劣な合金を使用した場合

⑤ 6000円 (海外宅急便往復) /20個

⑥ 金属分析検査費用 1万円/20個
品質チェックは含まない